

表5-3 場所別関係機関との連携・相談内訳

	合計	東京	東京以外の 関東近県	新潟	愛知	長野	富山	静岡	その他	不明
医療機関	27	12	1	12	1	1				
福祉機関	1	1								
保健機関	3		2		1					
その他	22	12	3				1	1	1	4
合計	53	25	6	12	2	1	1	1	1	4

*場所の「その他」は、関西

D. 考察

抗体検査については、総受検者数は1996年の567人をピークに減少傾向にあり、2000年には385人まで減少した。しかし、2001年には523人と増加した。これはC型肝炎対策の一環として5月から10月までHIV抗体検査実施者で希望者にはC型肝炎抗体検査を行ったため日本人の受検者が増加したことが主な理由と考えられる。外国人の受検者数は毎年100人前後で送受検者の18～27%の割合で推移している。2001年には総受検者523人中、104人(20%)が外国人であった。このように外国人に継続して利用されていることは、外国語相談員の検査時におけるカウンセリングや電話相談さらにNGOグループとの協力で広報活動などにより、検査を受けやすい体制がある程度整備されてきているためと思われる。しかし、検査時間が平日の昼間であること、結果まで2週間と時間がかかること、またまだまだ在日の外国人に周知が充分でないことなどの課題も多い。

言語別にみると、全体ではタイ語圏の受検者が最も多い。次に英語圏、スペイン・ポルトガル語圏である。特に2000年より英語圏の男性受検者の増加がみられる。おおむね現在の4外国語で対応可能であるが、少数ではあるものの、タイ語以外のアジア言語圏の受検者もあり、対応に苦慮することもある。

最近若い日本人、特に女性の間に、クラミジアや淋病などHIV以外のSTIの流行の兆しがあり、危惧されている。外国人にも同様の状況があるものと推測される。これまでも、抗体検査時に希望者には同時に梅毒検査を実施してきたが、さらにクラミジア抗体検査を

2000年4月より、淋菌検査を2001年4月より実施している。クラミジア抗体の陽性率は外国人も日本人と同様高率であり、HIVとこれらのSTIとの関係も深く、同時に実施することは意味のあることである。

HIV抗体陽性者に対しては、保健所医師が告知をし、病院受診の勧奨や、今後の生活・療養について相談を行うが、必要に応じて保健師、外国人相談員が同席してポストカウンセリングを行う。外国人に対しては、それぞれの国の言葉や文化のちがいがあり、コミュニケーションが難しい場合が多く、外国人相談員による支援は受検者にとっても、保健所の担当職員にとっても、大変心強いことである。

電話相談については、1997年より増加し、アクセス件数は最近3年間は毎年180件前後で推移している。特にポルトガル語やスペイン語によるものが多く、2001年には電話相談総数181件中ポルトガル語によるものが100件(55%)、スペイン語によるものが25件(14%)であった。また、電話相談をかけてきた人の居住地をみると東京や東京以外の関東近県のみならず、静岡、愛知、長野、新潟など日本の本州を中心に広範な地域からのアクセスがある。これはポルトガル語やスペイン語による相談窓口が国内にはほとんどないためと思われ、今後、国や各自治体による整備が望まれる。このように電話相談はポルトガル語とスペイン語によるものが多数を占めているが、1999年以降は英語によるものも増加している。抗体検査も1999年以降は英語圏の人、特に男性の受検者が増加傾向にあり、電話相談の増加と関連しているものと思われる。一方、抗体検査受検者の多いタイ語圏の電話相談は少ない。

NGO 等によるタイ語による広報活動が活発であることも考えられる。相談内容は従来からの抗体検査や HIV/AIDS に関する感染予防、医療等の従来の一般的な相談に加えて、最近は関係機関との連携等に関する相談も増加している。特にポルトガル語・スペイン語圏の感染者・患者が医療機関を受診した際の、感染者・患者と医療機関の橋渡し（電話による通訳）が増加している。外国人相談員によれば、近年感染者自身による電話相談が増加し、治療や療養生活についての継続的な相談が増え

ているという。それにともない、医療機関や福祉など他の行政機関、あるいは NGO など関係機関との連絡調整が増えており、時には同行して支援をすることもある。このように、電話相談は今後も需要が予測され、即時性、簡便性、場所を選ばないなどの利点があり、今後とも継続していく必要がある。

今後ともさらに外国人に受けやすい体制を考えながら、継続的にサービスをしていきたい。また NGO などの協力を得ながら、療養支援、広報活動をしていきたい。

薬物乱用・依存者におけるHIV感染の実態と ハイリスク行動についての研究

グループ長：和田 清（国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部）

班 員：石橋正彦（十全病院）、小田晶彦（国立下総療養所）、中村 恵（県立友部病院）、
前岡邦彦（瀬野川病院）、分島 徹（都立松沢病院）

研究協力者：飯田信夫（回生病院）、伊波真理雄（雷門メンタルクリニック）、岩井喜代仁ほかスタッフ（茨城
ダルク）、尾崎 茂（国立精神保健研究所）、菊池安希子（国立精神保健研究所）、高 直義（久米
田病院）、小沼杏坪（国立下総療養所）、末次幸子（筑波大学医学研究科）、津久江一郎（瀬野川病
院）、中村亮介（都立松沢病院）、平井慎二（国立下総療養所）、藤原永徳（久米田病院）、森田展
彰（筑波大学社会医学系精神保健）

研究要旨 ① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器、注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。② 研究は「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」（以下、病院群）、「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」（以下、非病院群）、「3. 精神科医療施設に入院した外国人精神障害者調査」の3部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査を実施した。③ 病院群調査において、1名のHIV感染者が認められた。感染者が認められたのは、1993年より開始された本調査（今回の調査を含めて1,868人の覚せい剤関連患者を調査してきた）では初めてのことであり、本人は注射による薬物の使用歴はないと言い、タイでのCSWとの性接触による感染であると陳述していた。④ 一方、これまで毎年1～2人のHIV感染者が確認されていた「3. 精神科医療施設に入院した外国人精神障害者調査」では、HIV感染者は認められなかった。この群は1994～1995年に比べると、人数の大幅な減少を見せており、外国人の流入の減少を示すようにも見えるが、不特定多数との性交渉経験者率は増加しており、外国人と性風俗問題は「地下にもぐった」可能性もある。⑤ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が44.7%と高く、66.9%の者にこれまでに注射による薬物乱用の既往（以下、注射の既往）があり、この1年間でも58%の者に注射の既往があった。また、約48～50%の者にシリンジ/針のこれまでの共有経験があり、最近1年間に限っても、約35～36%の者にシリンジ/針の共有経験があった。ただし、経年的には注射針の共有経験率は低下してきていた。一方、注射経験率自体は平衡状態であり、その一因としては「あぶり」の普及があると推測された。⑥ 病院群における「あぶり」の経験率は2000年、2001年と60%と高く、定着した感がある。「あぶり」はHIV感染とは直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の観点からは決して歓迎される形態とも言えない。⑦ 病院群の覚せい剤関連患者では、注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、性行動上の危険因子も含めて、複合的に危険性が増していると考えられる。その結果、この1年間に注射行動があり、入れ墨もある者が最もリスクが高いと推定された。しかし、今回捕捉されたHIV感染者には注射の既往はなく、現実には理論的推定通りには行かないことが示唆された。⑧ 覚せい剤関連患者の病院群と非病院群との比較では、HCV抗体陽性率は44.7:40.5とさほどの違いはなかったが、注射経験率の比較では、これまで及びこの1年間で、病院群：非病院群＝66.9:81.8及び58.1:45.9であり、これまでの注射経験率は非病院群で高いが、この1年間の注射経験率は非病院群で低かった。⑨ ただし、非病院群では病院群に比べて、「風俗」での性交渉率（26.6:50.0）、「不特定多数との性交渉」率（16.1:24.3）、「国内での外国人との性交渉」率（6.4:24.3）が高く、それぞれについて、コンドームを使用しなかった経験のある者の率も高く、性行動上のリスクが高いと推定された。⑩ 非病院群は、自助グループに参加している者たちであり、病院群よりは、良くも悪くも「仲間」関係が濃厚であることが推定され、この「仲間」関係の濃厚さを薬物依存からの脱却に活用する必要がある。⑪ 以上、現時点では、わが国の薬物乱用・依存者群はHIV感染の高感染集団とはなっていないが、HCV感染率の高さはHIV感染へのハイリスク・グループであることを示しており、今回、覚せい剤関連患者に初めて1名のHIV感染者が認められたこともあり、今後も継続的な調査が必要である。

A. 目的

薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めた

STD感染の実態を把握し、あわせて、注射器、注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

B. 研究グループの構成と研究方法

本研究グループは、下記のように3つのサブグループより成り立っている。

1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査

首都圏A病院

C病院

H病院

近畿圏G病院

中国圏B病院

九州圏E病院

F病院

2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査

首都圏某薬物依存者回復支援グループD

茨城ダルク

3. 精神科医療施設に入院した外国人精神障害者調査

首都圏C病院

わが国で乱用されている依存性薬物は、乱用者数の上では、有機溶剤と覚せい剤が圧倒的に多い。この両薬物は、乱用の繰り返しにより、高頻度に精神病を引き起こすため、薬物乱用・依存者を調査するには、精神科医療施設での調査が効果的である。また、覚せい剤の乱用は、相変わらず静脈注射によることが多いため、HIV感染の危険がきわめて高い。

そこで、当研究グループでは、薬物乱用・依存者が多いと考えられる地域の、かつ、薬物依存・精神病患者を多く診ている病院を調査定点とし、患者の承諾を得た上で、個人面接聞き取り調査・採血調査を実施した(図1)。調査定点の7病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約20%(6月30日現在の全国精神病院の病名別在院患者数より推定)は捕捉できると

平成12年における覚せい剤事犯の人口10万人に対する検挙人員(都道府県別分布図)

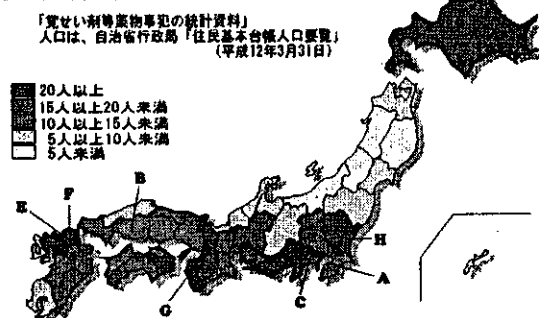


図1 平成12年度における覚せい剤事犯の人口10万人に対する検挙人員と調査定点

推定している。

また、薬物乱用・依存者の全てが医療施設を受診するわけではないから、薬物依存者回復支援グループの協力を得て、医療施設を受診していない薬物乱用・依存者に対する個人面接聞き取り調査・採血調査も、本人の同意の下で実施した。

さらに、これまでの本グループの調査により、外国人精神障害者での薬物乱用経験率は日本人に比べて明らかに高いことがわかっている。そこで、外国人精神障害者を多く診ている首都圏の病院で、患者の同意の下で、外国人精神障害者に対する個人聞き取り面接調査・採血調査を実施した。

いずれの調査も、調査期間は2001年1月1日～2001年12月31日である。

いずれにしても、覚せい剤等の使用は、わが国では、それ自体が犯罪行為であり、本調査は違法行為の掘り起こしの側面を持っており、調査への同意を得ることが極めて困難な調査である。しかも、ハイリスク行動に関する聞き取り調査には、調査者側の訓練・経験が必要であり、調査実施の困難性はなおさらである。

C. 本年度の目標

「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」はすでに、最低限の調査定点を確保(図1)し、年間500人前後の薬物依存・精神病患者調査を実施できる体制になっているが、本年度は「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」を強化することに力を注い

だ。その結果、2000年には34人しか調査できなかったが、2001年は45人の調査ができた。この集団の調査が最も難しいが、今後も継続課題となる。

なお、この「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」は、調査実施と共に、HIV及び肝炎予防啓発プログラムをも兼ねており、肝炎患者については、必要に応じて医療機関を紹介すると共に、薬物依存についても、必要に応じて、医療機関に依存者を結びつけるというアウトリーチ的プログラムとして実施している。

D. 各研究結果

研究1 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査

対象患者をICD-10分類に従って分類し、各カテゴリ毎に人口統計学的属性・血清検査結果、身体所見を示したものが表1である。

性別では、ICD-10分類に関わらず、これまで同様に男性が圧倒的に多く、男：女は84:12であった。

年齢はICD-10分類に対応して特徴的である。「揮発性溶剤」（有機溶剤）では20歳代、「多剤」及び「覚せい剤」では30歳代半ばであり、これまでと同じであった。

ICD-10分類に関わらず、独身者が多い一方で、離婚歴のある者の割合が一般人口での割合より明らかに高かった。

血清検査では覚せい剤関連患者に1名、HIV感染者が認められた。本調査は、1993年より開始され、今回の調査を含めて1,868人の覚せい剤関連患者を調査してきたが、HIV抗体陽性者を認めたのは、他の依存性薬物関連患者を含めても、初めてのことである。この1例の要約は下記の通りである。

症例 N.T. 30歳・日本人男性

1971年 都内にて出生・生育。高卒後は父親の営む内装業の手伝いをしていた。

1989～1991年（18歳～20歳時）覚せい剤を「あぶり」にて使用し（注射器の使用は否定）、覚せい剤取締法違反で警察に逮捕されたことがあるという。

1992年、タイへ旅行し、CSWからHIVウイルスに感染したという（ここでも覚せい剤等の静注については否定）。帰国後、カリニ肺炎などAIDSを発症し、都立K病院に4回の入院を挟み、通院を続けていた（父親は本人のAIDSを知って勘当を言い渡したという）。

1994年3月より幻覚妄想状態を呈し、同K病院精神科にも通院。

2001年7月、就労も思うにまかせず、生活保護受給のため世帯分離を意図し、アパート単身生活を開始した。

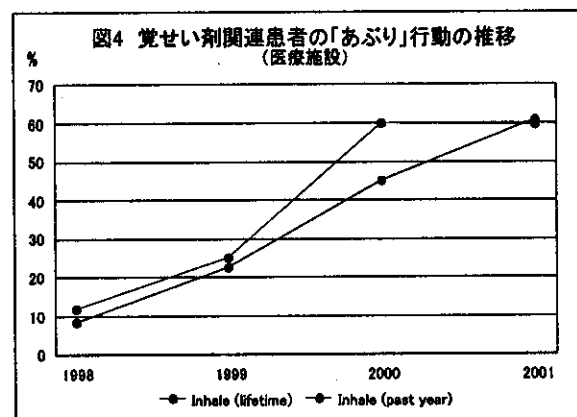
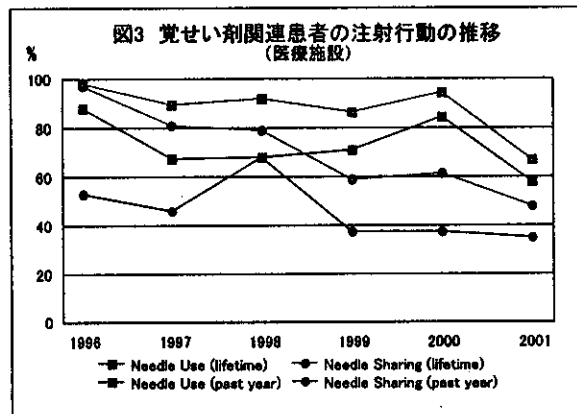
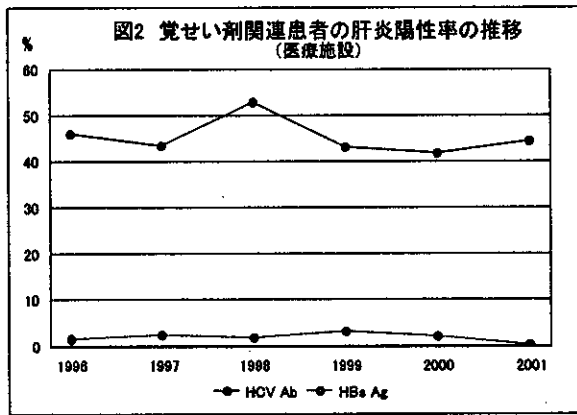
同年8月、知人宅で「この知人は魔族であり、魔族の世界征服を阻止しなければ」との妄想に基づいて、知人の前胸部を包丁で刺し殺人未遂で逮捕された。警察での尿検査の結果、尿中覚せい剤反応は陽性を示した。本人によれば「知人宅で覚せい剤入りのビールを飲まされたから」とのことである。拘留中も奇異な言動・行動持続するため不起訴となり、検察官通報による措置診察が行われ、同年9月14日、都立M精神病院に措置入院となった。抗精神病薬の内服により約1ヶ月で妄想は消退し、同年12月17日措置解除し、外出・外泊中の様子も観察したが精神科的に問題はなく、2002年1月9日、退院とした。

なお、当患者のHCV抗体、HBc抗体は陰性であった。

以上のように、本症例は覚せい剤依存・覚せい剤精神病患者ではあるが、本人の話によれば薬物の注射による使用歴はなく、感染経路はタイでのCSWとの性接触によるという。この陳述の真偽のほどは誰にもわからないが、いずれにしても、薬物乱用・依存者におけるHIV感染のリスクは、薬物の注射による使用だけにあるのではなく、性行動上の危険も高いことを示唆する症例であると考えられる。

また、覚せい剤関連患者におけるHCV抗体陽性率は、一貫して高かったが、2001年調査でも、陽性率は44.7%と高かった。

身体所見では、ICD-10分類に関わらず、「歯の著明不良あり」「入れ墨あり」の率が高く、覚せい剤関連患者では「指つめあり」の率も一



般人口のそれよりも明らかに高いと推定された。また、「根性焼き」とは、有機溶剤乱用時 (ICD-10では揮発性溶剤F18) に、タバコの火を自らの手の甲に押しつけることによって出来る火傷痕であり、有機溶剤乱用の既往を推測させるものであるが、「揮発性溶剤」患者のみならず、覚せい剤関連患者やその他の薬物関連患者にも、その保有率が高く、有機溶剤の乱用が覚せい剤等の乱用へとつながり易いという経験則を裏打ちしていた。

覚せい剤関連患者に関するこれまでの肝炎

抗体 (抗原) 陽性率の推移を図2に示した。1996年以降、わずかではあるが減少しているようにも見て取れるが、変化なしと解釈すべきであろう。

表2は、注射行動・性行動等のHIV感染に関する危険行動調査の結果である。

わが国での依存性薬物の静脈注射とは、事実上、覚せい剤の静脈注射を意味している。表2に示すように、覚せい剤関連患者の生涯注射経験率は66.9%と高く、覚せい剤関連患者の約48~50%の者に、シリンジ/針の生涯共有経験があることがわかる。

最近1年間に限れば、注射経験率は若干下がるが、それでも覚せい剤関連患者の58%には、最近1年間での注射既往があり、35~36%にはシリンジ/針の共有経験率もあった。

図3は覚せい剤関連患者の注射行動の推移を示しているが、1996年以降、注射針の共有経験率は生涯でも1年でも、確実に低下してきているが、注射経験率自体は2001年で低下したものの、基本的には平衡状態である。その一因としては、「あぶり」の普及が影響していると考えられる。

第2次覚せい剤乱用期 (1970年~1994年) には、覚せい剤の乱用と言え、静脈注射一辺倒であったが、その後の第3次乱用期では、覚せい剤を火であぶって吸う「あぶり」が若い年代の覚せい剤乱用者間で広がった。図4は「あぶり」の経験率を示しているが、2000年、2001年と「あぶり」が定着した感がある。さらに、この1年間での注射と「あぶり」の頻度比較 (表2-1) で「あぶり」が注射を上回ったのは、等調査研究を始めてから始めてのことである。

以上を総合的に考慮すると、覚せい剤を新たに乱用する群は「あぶり」優位であり、針の共有率を減少させているが、第2次乱用期からの常習的乱用者が注射をやめず、注射経験率を高く維持している可能性がある。

「あぶり」はHIV感染とは直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とも言えない。

「風俗」での性交渉は、ICD-10分類に関わら

ず、最近1年間で約30%の者に認められた(表2-2)。その際のコンドームの使用は徹底されておらず、啓発が必要である。

「風俗」以外での不特定多数との性交渉(「行きずり」の性交渉)経験率は、2000年調査では約26%であり、それ以前の調査よりは低かったが、2001年調査では更に低下し、約16%であった。ここでもコンドーム使用の問題が憂慮された。

最近1年間で海外渡航者は数の上では少なく、渡航先での薬物使用は認められなかったが、覚せい剤関連患者での海外での性交渉率は高く、注意を要すると考えられた。今回、捕捉された1名のHIV感染者は、この感染ルートによる。

表3は、ICD-10分類にかかわらず、注射の既往、入れ墨の有無による人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示したものである。

最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は約34歳であり、これまでに注射既往のない者のそれは31歳で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは35歳であった。これまでに注射による乱用経験のない者の平均年齢が最も若いことは、前述した「あぶり」の流行に関係していると推定できる。

また、HCV抗体陽性率は、この1年間にはないものの、これまでに注射経験のある者で約47%と最高であり、この1年間に注射経験のある者では約41%であった。この順番はこれまでと同じであり、前者は、既に注射行動等の薬物依存状態はそれなりに脱しているが、精神病等の後遺障害に罹患している患者が多いためと推定できる。

さらに、注射経験者では「入れ墨」保有率、「指つめ」のある率も高く、注射経験者の社会的属性が偏っている可能性を示していた。

また、「入れ墨」は、皮膚を彫る際の針によってHIV感染等の感染危険行動になり得る。表3に示したように、「入れ墨」保有者でのHCV抗体陽性率は約44%と高かった。

表4は、ICD-10分類に関わらず、調査対象を注射既往、入れ墨の有無から、注射行動、性行動についてみたものである。

これまでに注射既往のある者では、約70%前後の者にシリンジないしは針の共有経験があ

った。最近1年間に限れば、割合は下がるが、それでも約60%前後の者にシリンジないしは針の共有経験があった。以上の結果は2000年調査の結果とほとんど同じであった。

「風俗」での性交渉は、注射経験のある群で高かった。コンドームを使用しなかったことのある者の割合も、注射経験のある群で高かった。

また、「入れ墨」保有者では、これまでの注射既往率が約88%と高く、この1年間に限っても約74%であり、これまでのシリンジないしは針の共有経験率は約77~79%で、この1年間でも約53%と高かった。

さらに、最近1年間で「風俗」での性交渉経験率も53%と高かった。

以上より、覚せい剤関連患者では、注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、性行動上の危険因子も含めて、複合的に危険性が増していると考えられる。その結果、この1年間に注射行動があり、入れ墨もある者が、最もリスクが高いと推定できる。しかし、今回捕捉されたHIV感染者には注射の既往はなく、現実には理論的推定通りには行かないことが示唆された。

研究2 医療機関を受診していない薬物依存者調査

表5は医療機関を受診していない薬物依存者のICD-10分類にもとづく、人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示している。

男女比は男：女で80：20であり、「1.精神科医療施設に入院した薬物依存者」群(以下、病院群)と概ねおなじであった。覚せい剤関連患者の平均年齢は約33歳であり、病院群より1歳若いことが、この群の特徴の一つである。未婚者が多いと同時に離婚経験者も多いことは、病院群と同じであった。

また、覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は約41%であり、病院群の約45%(表1)と大きな違いはない。

覚せい剤関連患者についての両群の比較では、「入れ墨」のある率と「指つめ」のある率は、それぞれ病院群：非病院群=18.5:19.4と12.1:11.1であり、ほとんど同じであるが、「根性焼き」「自傷痕」のある率は、非病院群で高

く(13.7:27.8、12.1:41.7)、「注射痕」のある率は非病院群で低かった(40.3:22.2)(表1、表5)。

また、覚せい剤関連患者での注射経験率(表2-1、表6)の比較では、これまで及びこの1年間で、病院群：非病院群=66.9:81.8及び58.1:45.9であり、非病院群でのこの1年間での注射経験率が低かった。

ただし、非病院群では、病院群に比べて、「風俗」での性交渉率(26.6:50.0)、「不特定多数との性交渉」率(16.1:24.3)、「国内での外国人との性交渉」率(6.4:24.3)が高く、それぞれについて、コンドームを使用しなかった経験のある者の率も高く、性行動上のリスクが高いと推定された。

表7は、注射既往、入れ墨の有無からみた人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見である。表3同様、ここでも、注射行動がHCV感染と強い関係にあることが示唆された。

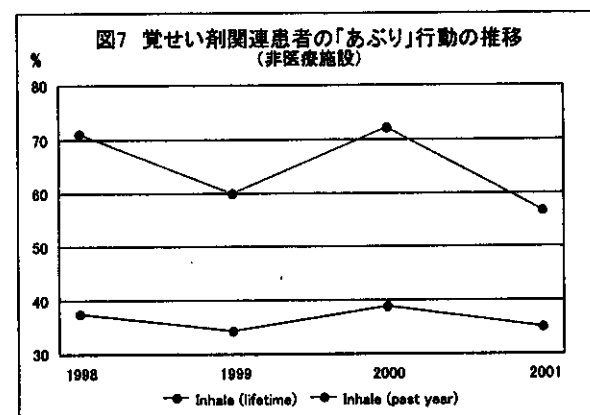
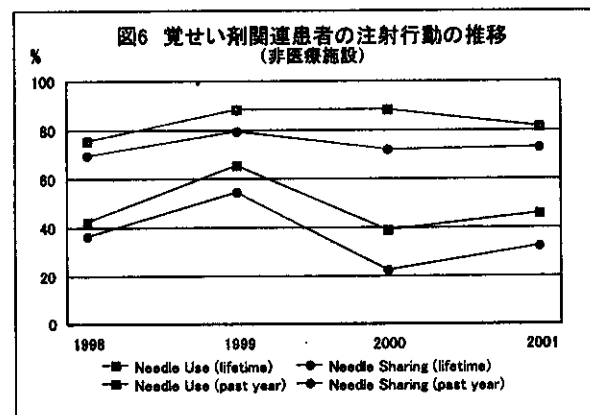
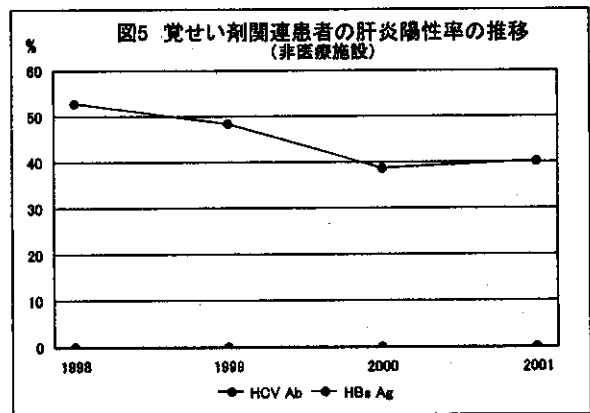
表8は、注射既往、入れ墨の有無からみた注射行動、性行動を示している。この群で、シリンジ及び針の共有率が病院群より高い(この1年間で注射経験のある群で、それぞれ、これまででは、71.1:100、69.9:94.1。この1年間では、60.2:70.6、59.0:70.6)のは、これまでと同様である。この群は、自助グループに参加している者たちであり、病院群よりは、良くも悪くも「仲間」関係が濃厚であることを物語っているように推定できる。

この「仲間」関係の濃厚さを薬物依存からの脱却に活用する必要がある。

図5～図7に、この群のこれまでの推移を示した。肝炎抗体(抗原)陽性率は1996年以降、低下傾向が伺われる。しかし、注射行動は平衡状態のようである。また、「あぶり」の率はもともとこの群は病院群よりは高く、今日的趨勢を病院群よりは敏感に示す傾向にある。

研究3 精神科医療施設に入院した外国人精神障害者調査

2001年中に25カ国33人の入院があった(表9)。この数は昨年に比べると11人増ではあるが、



1994年の26カ国73名、1995年の25カ国76名に比べるとその後の大幅な減少を物語っている(表12)。

入院理由が、依存性薬物使用による者はアルコールを原因とする者1人、覚せい剤を原因とするもの1人、計2名であった(表10)。

本調査では、HIV感染者は認められなかった(表11)。表12に示すように、1995年以降、薬物使用歴+、静脈注射歴+の者の割合は漸減傾向にあり、また、「風俗」経験と不特定多数との性交渉のある者の割合が、1995年以降、確実

表9 外国人患者の国籍

出身国籍	男性	女性	合計
韓国	3	1	4
フィリピン	1	2	3
アメリカ	3	0	3
中国	1	1	2
イギリス	1	0	1
イスラエル	1	0	1
インド	1	0	1
インドネシア	1	0	1
オーストラリア	0	1	1
ガーナ	1	0	1
カザフスタン	1	0	1
カナダ	1	0	1
ギリシャ	1	0	1
ケニア	1	0	1
ジャマイカ	1	0	1
スウェーデン	1	0	1
タイ	0	1	1
ドイツ	1	0	1
トルコ	1	0	1
ニュージーランド	1	0	1
ネパール	1	0	1
パキスタン	1	0	1
フランス	1	0	1
ミャンマー	1	0	1
台湾	0	1	1
合計	26	7	33
平均年齢	36.3 ±12.0	29.3 ±7.2	34.8 ±11.4

表10 外国人患者のICD-10分類

ICD-10	男性	女性	合計
精神作用物質性障害	2	0	2
アルコール	1	0	1
覚せい剤	1	0	1
精神分裂病	3	2	5
急性一過性精神病性障害	19	5	24
器質性精神障害	1	0	1
アルツハイマー	1	0	1
合計	26	7	33

に減少してきている。

これらの結果より、性風俗産業への外国人の流入が減少して来ているように解釈できるが、昨年は対象数が15名だけであったにもかかわらず、不特定多数との性交渉を有する者が40%と高く、外国人と性風俗産業との問題は「地下にもぐっている」可能性もある。

今後も継続的な調査が必要である。

E. 結論

① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含め

表11 外国人患者の薬物乱用・性行動と血清検査結果

	男性	女	合計
薬物使用歴+	2	0	2
静脈注射歴+	0	0	0
「風俗」経験+	0	1	1
不特定多数との性交渉+	1	1	2
同性愛+	0	1	1
HIV抗体+	0	0	0
HCV抗体+	1	2	3
HBs抗原+	0	0	0
TPHA+	1	0	1
n	25	7	32

たSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

② 研究は「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」（以下、病院群）、「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」（以下、非病院群）、「3. 精神科医療施設に入院した外国人精神障害者調査」の3部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査を実施した。

③ 病院群調査において、1名のHIV感染者が認められた。感染者が認められたのは、1993年より開始された本調査（今回の調査を含めて1,868人の覚せい剤関連患者を調査してきた）では初めてのことであり、本人は注射による薬物の使用歴はないと言い、タイでのCSWとの性交渉による感染であると陳述していた。

④ 一方、これまで毎年1~2人のHIV感染者が確認されていた「3. 精神科医療施設に入院した外国人精神障害者調査」では、HIV感染者は認められなかった。この群は1994年、1995年に比べると、人数の大幅な減少を見せており、外国人の流入の減少を示すようにも見えるが、不特定多数との性交渉経験者率は増加しており、外国人と性風俗問題は「地下にもぐった」可能性

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
薬物使用歴+	23.1 (12/52)	18.2	7.0 (3/43)	18.0	7.9	6.7	6.3
静脈注射歴+	13.0 (6/46)	12.7	2.3 (1/44)	4.9	7.9	6.7	0
「風俗」経験+	73.9 (17/23)	38.2	13.3 (6/45)	24.6	7.9	0	3.1
不特定多数との性交渉+	27.7 (13/47)	27.3	17.8 (8/45)	6.6	7.9	40.0	6.3
同性愛+	-	3.6	0 (0/45)	0	0	0	3.1
HIV抗体+	0 (0/47)	0	4.9 (2/41)	1.8 (1/57)	5.3	6.7	0
HCV抗体+	11.8 (9/76)	10.9	0 (0/42)	1.8 (1/57)	7.9	20.0	9.4
HBs抗原+	4.1 (3/73)	10.9	9.3 (4/43)	5.3 (3/57)	0	6.7	0
HBs抗体+	4.5 (1/22)	0 (0/1)	0 (0/2)	0 (0/3)	0 (0/3)	6.7	-
TPHA+	4.8 (2/42)	10.2 (5/49)	2.3 (1/43)	0	5.3	6.7	3.1
n	76	55	47	61	38	15	32

表12 外国人患者の薬物乱用・性行動と血清検査結果の変遷

もある。

⑤ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が44.7%と高く、66.9%の者にこれまでに注射による薬物乱用の既往（以下、注射の既往）があり、この1年間でも58%の者に注射の既往があった。また、約48～50%の者にシリンジ／針のこれまでの共有経験があり、最近1年間に限っても、約35～36%の者にシリンジ／針の共有経験があった。ただし、経年的には注射針の共有経験率は低下してきていた。一方、注射経験率自体は平衡状態であり、その一因としては「あぶり」の普及があると推測された。

⑥ 院群における「あぶり」の経験率は2000年、2001年と60%と高く、定着した感がある。「あぶり」はHIV感染と直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とも言えない。

⑦ 病院群の覚せい剤関連患者では、注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、性行動上の危険因子も含めて、複合的に危険性が増していると考えられる。その結果、この1年間に注射行動があり、入れ墨もある者が、最もリスクが高いと推定された。しかし、今回捕

捉されたHIV感染者には注射の既往はなく、現実には理論的推定通りには行かないことが示唆された。

⑧ 覚せい剤関連患者の病院群と非病院群との比較では、HCV抗体陽性率は44.7:40.5とさほどの違いはなかったが、注射経験率の比較では、これまで及びこの1年間で、病院群：非病院群＝66.9:81.8及び58.1:45.9であり、これまでの注射経験率は非病院群で高いが、この1年間の注射経験率は非病院群で低かった。

⑨ ただし、非病院群では、病院群に比べて、「風俗」での性交渉率（26.6:50.0）、「不特定多数との性交渉」率（16.1:24.3）、「国内での外国人との性交渉」率（6.4:24.3）が高く、それぞれについて、コンドームを使用しなかった経験のある者の率も高く、性行動上のリスクが高いと推定された。

⑩ 非病院群は、自助グループに参加している者たちであり、病院群よりは、良くも悪くも「仲間」関係が濃厚であることが推定され、この「仲間」関係の濃厚さを薬物依存からの脱却に活用する必要がある。

⑪ 以上、現時点では、わが国の薬物乱用・依存者群はHIV感染の高感染集団とはなっていないが、HCV感染率の高さは、HIV感染へのハイリ

スク・グループであることを示しており、今回、必要である。
 覚せい剤関連患者に初めて1名のHIV感染者が
 認められたこともあり、今後も継続的な調査が F. 発表論文 なし

表1【医療機関を受診した薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

	ICD-10								全体
	F10 アルコール	F11 アヘン類	F12 大麻	F13 鎮静睡眠薬	F15 覚せい剤	F16 催幻覚剤	F18 揮発性溶剤	F19 多剤	
	4[0.9]	8[1.8]	2[0.4]	18[4.0]	328[72.7]	4[0.9]	62[13.7]	25[5.5]	451[100]
性別									
男	3(75.0)	5(62.5)	2(100)	11(61.1)	277(64.5)	2(50.0)	57(91.9)	22(88.0)	379(84.0)
女	1(25.0)	3(37.5)	0(0)	7(38.9)	51(35.5)	2(50.0)	5(8.1)	3(12.0)	72(16.0)
年齢							2(7.7)		
20歳未満					2(1.1)	1(25.0)	16(61.5)		5(1.9)
20歳代		4(80.0)	2(100)	7(43.8)	62(34.4)	2(50.0)	7(26.9)	9(42.9)	102(39.5)
30歳代	2(50.0)	1(20.0)		7(43.8)	66(36.7)	1(25.0)	1(3.8)	6(28.6)	90(34.9)
40歳代	2(50.0)				36(20.0)			4(19.0)	43(16.7)
50歳代				1(6.3)	12(6.7)			2(9.5)	15(5.8)
60歳代				1(6.3)	1(0.6)				2(0.8)
不明					1(0.06)				1(0.4)
平均年齢±SD	38.0 ±6.4	26.2 ±4.5	23.3 ±4.9	32.3 ±12.3	34.2 ±9.5	23.8 ±5.9	28.1 ±7.1	34.0 ±9.3	33.2 ±9.6
現在の配偶歴	n=4	n=5	n=2	n=16	n=124	n=4	n=9	n=19	n=183
未婚		80.0	100	56.3	58.9	100	66.7	73.7	61.2
既婚	100	20.0		37.5	19.4		22.2	21.1	22.4
離婚				6.3	19.4		11.1	5.3	14.8
死別					1.6				1.1
不明					0.8				0.5
離婚歴あり	50.0	0	0	18.8	26.6	0	33.3	10.5	23.5
血清検査(%)	n=4	n=8	n=2	n=18	n=328	n=4	n=62	n=25	n=451
HIV抗体陽性	0	0 0/7	0	0	0.3 1/291	0	0 0/53	0 0/21	0.3 1/399
HCV抗体陽性	0	14.3 1/7	0	5.6	44.7 140/313	25	10.6 5/47	16.7 4/24	35.4 152/429
HBs抗原陽性	0	0 0/7	0	0	0.3 1/313	0	0 0/59	0 0/24	0.2 1/521
HBs抗体陽性	0	0 0/5	- 0/0	0 0/16	3.9 4/103	0	0 0/8	0 0/17	2.5 4/157
HBc抗体陽性	0 0/2	0 0/5	- 0/0	0 0/15	4.9 4/81	0	0 0/6	0 0/12	3.2 4/125
TPHA陽性率	0	0 0/7	0	0	1.0 3/313	0	0 0/59	0 0/24	0.7 3/431
性病既往(自己申告)(%)	n=4	n=5	n=2	n=16	n=124	n=4	n=9	n=19	n=183
毛ジラミ	25.0	0	0	0	6.5	0	0	0	4.9
淋病	25.0	0	50.0	0	7.3	0	11.1	0	6.6
クラミジア	0	0	0	0	2.4	0	11.1	0	2.2
梅毒	0	0	0	0	4.0	0	0	0	2.7
身体所見(%)	n=4	n=5	n=2	n=16	n=124	n=4	n=9	n=19	n=183
輸血の既往+	0	0 0/4	0	0	0.8 1/123	0	11.1	5.3	1.7 3/181
歯の著明不良	50	0	50.0	0	22.6	75.0	77.8	10.5	23.5
注射痕あり	0	20.0	0	0	40.3	25.0	0	15.8	30.1
入れ墨あり	25.0	20.0	100	6.3	18.5	0	22.2	21.1	18.6
指つめあり	0	0	0	0	12.1	0	0	5.3	8.7
根性焼きあり	25.0	20.0	50.0	0	13.7	0	77.8	15.8	16.4
白傷痕あり	50.0	0	0	0	12.1	25.0	22.2	10.5	12.0

表2-1【医療機関を受診した薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	ICD-10								全体
	F10	F11	F12	F13	F15	F16	F18	F19	
	アルコール	アヘン類	大麻	鎮静睡眠薬	覚せい剤	催幻覚剤	揮発性溶剤	多剤	
	4[0.9]	8[1.8]	2[0.4]	18[4.0]	328[72.7]	4[0.9]	62[13.7]	25[5.5]	451[100]
これまでに(%)	n=4	n=5	n=2	n=16	n=124	n=4	n=9	n=19	n=183
注射経験あり	25.0	20.0	100	0	66.9	25	33.3	47.4	54.6
シツツ共有経験+	0	0	100	0	49.6	25.0	33.3	21.4	39.0
					61/123				71/182
針の共有経験+	0	0	100	0	48.0	25.0	25.0	21.1	37.6
					59/123		1/8		68/181
注射回数									
なし	75.0	80.0	0	100	33.1	75.0	66.7	52.6	45.4
1~49回	25.0	0	50.0	0	17.7	25.0	11.1	31.6	17.5
50~99回	0	20.0	50.0	0	12.9	0	0	5.3	10.4
100回以上	0	0	0	0	35.5	0	11.1	10.5	25.7
不明	0	0	0	0	0.8	0	11.1	0	1.1
最近1年間で(%)	n=4	n=5	n=2	n=16	n=124	n=4	n=8	n=19	n=183
注射経験あり	0	20.0	100	0	58.1	25.0	0	42.1	45.9
シツツ共有経験+	0	0	100	0	35.8	25.0	0	15.8	27.6
					44/123				50/181
針の共有経験+	0	0	100	0	35.0	25.0	0	15.8	27.1
					43/123				49/181
注射回数									
なし	100	80.0	0	100	42.7	75.0	100	57.9	54.4
1~49回	0	0	50.0	0	46.0	25.0	0	36.8	36.3
50~99回	0	20.0	50.0	0	6.5	0	0	0	5.5
100回以上	0	0	0	0	4.0	0	0	5.3	3.3
不明	0	0	0	0	0.8	0	0	0	0.5
これまでに「あぶり」の経験あり(%)	n=4	n=5	n=2	n=16	n=124	n=4	n=9	n=19	n=183
	0	20.0	50.0	0	59.6	0	44.4	63.2	49.7
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)	n=4	n=1	n=2	n=1	n=108	n=4	n=7	n=14	n=141
	0	100	50.0	0	61.1	0	42.9	71.4	56.0
この1年間でどちらが多いか?(%)	n=4	n=1	n=2	n=1	n=108	n=4	n=7	n=14	n=141
注射	0	0	100	0	40.7	50.0	14.3	14.3	36.2
「あぶり」	0	100	0	0	41.7	0	42.9	50.0	39.7
同程度	0	0	0	100	10.2	0	0	21.4	10.6
どちらもなし	100	0	0	0	7.4	50.0	42.9	14.3	13.5
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)	n=4	n=5	n=2	n=16	n=124	n=4	n=9	n=19	n=183
なし	25.0	80.0	50.0	81.3	73.4	75.0	33.3	57.9	69.4
あり(常にコンドーム+)	0	20.0	0	12.5	18.5	25.0	44.4	42.1	20.8
あり(コンドーム-のこともあり)	75.0	0	50.0	6.3	8.1	0	11.1	0	9.3
不明	0	0	0	0	0	0	11.1	0	0.5
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)	n=4	n=5	n=2	n=16	n=124	n=4	n=9	n=19	n=183
なし	75.0	80.0	50.0	100	83.9	100	66.7	73.7	83.1
あり(常にコンドーム+)	0	0	50.0	0	4.8	0	11.1	5.3	4.4
あり(コンドーム-のこともあり)	25.0	20.0	0	0	11.3	0	11.1	21.1	12.0
不明	0	0	0	0	0	0	11.1	0	0.5

表 2-2【医療機関を受診した薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	ICD-10								全体
	F10 アルコール	F11 アヘン類	F12 大麻	F13 鎮静睡眠薬	F15 覚せい剤	F16 催幻覚剤	F18 揮発性溶剤	F19 多剤	
	4[0.9]	8[1.8]	2[0.4]	18[4.0]	328[72.7]	4[0.9]	62[13.7]	25[5.5]	451[100]
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)	n=4	n=5	n=2	n=16	n=124	n=4	n=9	n=19	n=183
なし	75.0	80.0	100	100	93.5	100	77.8	100	93.4
あり(常にコンドーム+)	0	20.0	0	0	1.6	0	0	0	1.6
あり(コンドームのこいとあり)	25.0	0	0	0	4.8	0	11.1	0	4.4
不明	0	0	0	0	0	0	11.1	0	0.5
性接触ありの場合の相手	n=1	n=1	n=0	n=0	n=8	n=0	n=1	n=0	n=11
「風俗」で	0	0	-	-	62.5	-	0	-	45.5
「風俗」以外で	100	0	-	-	12.5	-	0	-	18.2
両方で	0	0	-	-	12.5	-	100	-	18.2
不明	0	100	-	-	12.5	-	0	-	9.1
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)	n=4	n=5	n=2	n=16	n=124	n=4	n=9	n=19	n=183
上記のうち	0	0	0	0	3.2	0	0	5.3	2.7
渡航先で薬物使用のあった者	n=0	n=0	n=0	n=0	n=4	n=0	n=0	n=1	n=5
渡航先で性交渉のあった者	-	-	-	-	0	-	-	0	0
渡航先で性交渉のあった者	-	-	-	-	25.0	-	-	0	20.0

表3【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

	これまでに 注射経験なし 83[45.6]	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		1年間にはなし 15[8.2]	1年間にもあり 84[46.2]	なし 149[81.4]	あり 34[18.6]
性別					
男	62[44.6]	15[10.8]	62[44.6]	107[76.4]	33[23.6]
女	21[48.8]	0[0]	22[51.2]	42[97.7]	1[2.3]
年齢					
20歳未満	2[50.0]	0[0]	2[50.0]	4[100]	0[0]
20歳代	39[54.2]	2[2.8]	31[43.1]	60[83.3]	12[16.7]
30歳代	28[45.2]	11[17.7]	23[37.1]	52[82.5]	11[17.5]
40歳代	10[34.5]	1[3.4]	18[62.1]	24[82.8]	5[17.2]
50歳代	3[25.0]	0[0]	9[75.0]	7[58.3]	5[41.7]
60歳代	1[50.0]	0[0]	1[50.0]	1[50.0]	1[50.0]
不明	0[0]	1[100]	0[0]	1[100]	0[0]
平均年齢±SD	31.0±9.0	35.0±9.1	34.4±10.8	32.5±9.5	33.1±9.9
現在の配偶歴					
未婚	63.9	60.0	58.3	59.7	67.6
既婚	31.3	13.3	15.5	24.8	11.8
離婚	4.8	26.7	22.6	13.4	20.6
死別	0	0	2.4	1.3	0
不明	0	0	1.2	0.7	0
離婚歴あり	19.3	33.3	26.5	23.0	26.5
			22/83	34/148	
血清検査(%)					
HIV抗体陽性率	1.2 1/83	0 0/14	0 0/83	0.7 1/148	0 0/33
HCV抗体陽性率	6.0	46.7	40.5	20.8	44.1
HBs抗原陽性率	0	0	0	0	0
HBs抗体陽性率	2.4 2/82	9.0 1/11	1.6 1/62	2.2 3/134	4.5 1/22
HBc抗体陽性率	1.6 1/64	0 0/7	2.0 1/51	1.9 2/105	0 0/18
TPHA陽性率	0	0	0	0	0
性病既往(自己申告)(%)					
毛ジラミ	0	20.0	7.1	2.0	17.6
淋病	2.4	0	11.9	3.4	20.6
クラミジア	1.2	6.7	2.4	2.0	2.9
梅毒	0	0	6.0	0.7	11.8
身体所見(%)					
輸血の既往あり	0	7.1 1/14	1.2 1/83	1.4 2/148	3.0 1/33
歯の著明不良あり	10.8	40.0	32.1	16.8	52.9
注射痕あり	0	20.0	61.9	24.8	52.9
入れ墨あり	4.8	33.3	29.8		
指つめあり	0	26.7	14.3	2.7	35.3
根性焼きあり	10.8	46.7	15.5	12.1	35.3
自傷痕あり	6.0	13.3	16.7	10.7	17.6

表 4-1 医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	性別	これまでに	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		注射経験なし 83[45.6]	1年間にはなし 15[8.2]	1年間にもあり 84[46.2]	なし 149[81.4]	あり 34[18.6]
性別	男	62[44.6]	15[10.8]	62[44.6]	107[76.4]	33[23.6]
	女	21[48.8]	0[0]	22[51.2]	42[97.7]	1[2.3]
これまでに (%)						
	注射経験あり		100	100	47.0	88.2
	シツツ' 共有経験あ		73.3	71.1(59/83)	29.7(44/148)	79.4
	針の共有経験あり		64.3(9/14)	69.9(58/83)	28.6(42/147)	76.5
	注射経験の注射回数					
	なし		0	0	53.0	11.8
	1~49回		33.3	31.0	18.8	11.8
	50~99回		26.7	17.9	9.4	14.7
	100回以上		33.3	50.0	17.4	61.8
	不明		6.7	1.2	1.3	0
最近1年間で (%)						
	注射経験あり			100	39.6	73.5
	シツツ' 共有経験			60.2(50/83)	21.8(32/147)	52.9
	針の共有経験			59.0(49/83)	21.1(31/147)	52.9
	注射経験の注射回数					
	なし		0	0	60.8	26.5
	1~49回			78.6	33.1	50.0
	99回			11.9	4.1	11.8
	100回以上			7.1	1.4	11.8
	不明			2.4	0.7	0
これまでに「あぶり」の経験あり (%)						
		54.2	53.3	44.0	53.7	32.4
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)						
		75.0	26.7	47.8	60.8	28.6
この1年間でどちらが多いか? (%)						
	注射	1.8	13.3	69.6	32.5	57.1
	「あぶり」	75.0	33.3	13.0	45.8	4.8
	同程度	5.4	0	17.4	10.8	9.5
	どちらもなし	17.9	53.3	0	10.8	28.6
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%)						
	なし	75.9	46.7	67.9	74.5	47.1
	あり (常にコンドーム+)	19.3	40.0	19.0	18.1	32.4
	あり (コンドーム-のことあり)	4.8	6.7	13.1	6.7	20.6
	不明	0	6.7	0	0.7	0
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)						
	なし	96.4	60.0	75.0	87.9	61.8
	あり (常にコンドーム+)	2.4	13.3	4.8	3.4	8.8
	あり (コンドーム-のことあり)	1.2	20.0	20.2	8.1	29.4
	不明	0	6.7	0	0.7	0
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)						
	なし	96.4	93.3	91.7	95.3	85.3
	あり (常にコンドーム+)	1.2	0	2.4	1.3	2.9
	あり (コンドーム-のことあり)	2.4	0	6.0	2.7	11.8
	不明	0	6.7	0	0.7	0
	性接触ありの場合	n=3	n=0	n=7	n=5	n=5
	「風俗」で	0	-	83.3	40.0	60.0
	「風俗」以外で	66.7	-	0	20.0	20.0
	両方で	33.3	-	0	40.0	0
	不明	0	-	16.7	0	20.0

表 4-2 医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

		これまでに			入れ墨	
		注射経験なし	これまでに注射経験あり		なし	あり
		83[45.6]	1年間はなし	1年間にもあり	149[81.4]	34[18.6]
性別	男	62[44.6]	15[10.8]	62[44.6]	107[76.4]	33[23.6]
	女	21[48.8]	0[0]	22[51.2]	42[97.7]	1[2.3]
外渡航歴のある者（最近1年間）（%）						
		2.4	0	3.6	2.7	2.9
上記のうち、渡航先で薬物使用のあった者						
		0	-	0	0	0
渡航先で性交渉のあった者						
		66.7	-	0	25.0	100

これまでの推移-1

①精神科医療施設に入院した覚せい剤乱用・依存者調査(実人数) 複数回の人間は、初回をカウント

	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
HIV Ab 検査数	39	41	47	162	270	316	340	362	291
HIV Ab +	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
HCV Ab +	53.8 21/39	65.1 28/43	43.6 24/55	46.1 82/178	43.6 127/291	53.0 165/317	43.2 153/354	42.0 153/364	44.7 140/313
HBs Ag +	2.6 1/39	2.3 1/43	0 0/60	1.7 3/181	2.4 7/290	1.9 6/318	3.4 12/355	2.2 8/365	0.3 1/313
HBs Ab +	25.6 10/39	25.6 11/43	10.8 4/37	13.0 18/138	8.0 20/250	11.5 10/87	12.2 14/115	3.8 10/262	3.9 4/103
HBc Ab +				16.7 1/6	9.4 5/53	18.0 12/61	5.8 6/104	0 0/82	4.9 4/81
% Needle Use (lifetime)	92.1 35/38	95.3 41/43	93.3 56/60	98.0 50/51	89.9 134/149	92.0 127/138	86.7 156/180	94.9 149/157	66.9 83/124
% Needle Use (past year)		50.0 5/10	70.0 42/60	88.2 45/51	67.6 98/145	68.1 94/138	71.1 128/180	84.7 133/157	58.1 72/124
% Needle Sharing (lifetime)	84.2 32/38	88.4 38/43	67.9 36/53	97.2 35/36	81.3 109/134	78.9 101/128	58.9 99/168	61.8 97/157	48.0 59/123
% Needle Sharing (past year)		40.0 4/10	32.7 17/52	52.9 18/34	45.8 60/131	68.1 94/138	37.3 62/166	37.6 59/157	35.0 43/123
「あぶり」の経験+(lifetime)						30.3 47/155	53.4 93/174	59.9 94/157	59.6 74/124
「あぶり」の経験+(past year)						20.8 32/154	48.0 84/175	45.2 71/157	61.1 66/108
注射か「あぶり」か(past year)						63.2 9.0	49.2 28.5	68.2 16.6	40.7 41.7
注射						1.3	8.4	7.6	10.2
「あぶり」						26.5	14.0	6.4	7.4
同程度									
どちらもなし									
n						155	179	157	108
調査施設数	関東 1	関東 1 関西 1	関東 2 関西 1	全国 6	全国 7	全国 6	全国 6	全国 7	全国 7

表5【医療機関を受診していない薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

	ICD-10					全体
	F10 アルコール	F12 大麻	F15 覚せい剤	F18 揮発性溶剤	F19 多剤	
	1[2.2]	1[2.2]	37[82.2]	3[6.7]	3[6.7]	45[100]
性別						
男	1(100)	1(100)	28(75.7)	3(100)	3(100)	36(80.0)
女	0(0)	0(0)	9(24.3)	0(0)	0(0)	9(20.0)
年齢						
20歳未満			1(2.8)			1(2.3)
20歳代		1(100)	11(30.6)	1(33.3)		13(29.5)
30歳代	1(100)		18(50.0)	1(33.3)	3(100)	23(52.3)
40歳代			4(11.1)	1(33.3)		5(11.4)
50歳代			2(5.6)			2(4.5)
不明			1			
平均年齢±SD	32	29	32.9±8.0	33.0±8.5	35.0±2.7	33.0±7.5
現在の配偶歴(%)						
未婚		100	64.9	100	33.3	64.4
既婚			10.8		66.7	13.3
離婚	100		24.3			22.2
死別						0
離婚歴あり	100	0	25.0	0	33.3	25.0
血清検査(%)						
HIV抗体陽性率	0	0	0	0	0	0
HCV抗体陽性率	0	0	40.5	0	33.3	35.6
HBs抗原陽性率	0	0	0	0	0	0
HBs抗体陽性率	0	0	8.1	0	0	6.7
HBe抗体陽性率	0/1	0/1	3/24	0/3	0/2	3/31
TPHA陽性率	0	0	0	0	0	0
性病既往(自己申告)(%)	n=1	n=1	n=36	n=3	n=2	n=43
毛ジラミ	0	0	8.3	0	50.0	9.3
淋病	0	100	19.4	33.3	0	20.9
クラミジア	0	0	5.6	0	0	4.7
梅毒	0	0	0	0	0	0
身体所見(%)						
輸血の既往あり	100	0	18.2	0	66.7	21.4
歯の著明不良あり	1/1	0/1	6/33	0/2	2/3	9/40
注射痕あり	0	0	22.2	0	0	18.2
入れ墨あり	0	100	19.4	0	33.3	20.5
指つめあり	0	0	11.1	0	0	9.1
根性焼きあり	0	0	27.8	33.3	0	25.0
自傷痕あり	0	0	41.7	0	33.3	36.4
	0/1	0/1	15/36	0/3	1/3	16/44

表6【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

	ICD-10					全体
	F10 アルコール	F12 大麻	F15 覚せい剤	F18 揮発性溶剤	F19 多剤	
	1[2.2]	1[2.2]	37[82.2]	3[6.7]	3[6.7]	45[100]
これまで(%)						
注射経験あり	0	0	81.8	33.3	33.3	71.1
シリンジ共有経験あり	0	0	75.7	33.3	0	64.4
針の共有経験あり	0	0	73.0	33.3	0	62.2
注射回数						
なし	100	100	18.9	66.7	66.7	28.9
1~49回	0	0	8.1	0	33.3	8.9
50~99回	0	0	2.7	33.3	0	4.4
100回以上	0	0	62.2	0	0	51.1
不明	0	0	8.1	0	0	6.7
最近1年間で(%)						
注射経験あり	0	0	45.9	0	0	37.8
シリンジ共有経験あり	0	0	32.4	0	0	26.7
針の共有経験あり	0	0	32.4	0	0	26.7
注射回数						
なし	100	100	54.1	100	100	62.2
1~49回	0	0	13.5	0	0	11.1
50~99回	0	0	2.7	0	0	2.2
100回以上	0	0	24.3	0	0	20.0
不明	0	0	5.4	0	0	4.4
これまで「あぶり」の経験あり(%)	0	0	56.8	0	66.7	51.1
この1年間で「あぶり」の経験あり(%)	0	0	35.1	0	0	28.9
この1年間ではどちらが多いか?(%)						
注射			43.2			
「あぶり」			13.5			
同程度			0			
どちらもなし			43.2			
「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%)						
なし	0	0	50.0	66.7	100	52.3
あり(常にコンドーム+)	100	100	27.8	33.3	0	29.5
あり(コンドーム-のこともあり)	0	0	22.2	0	0	18.2
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%)						
なし	0	100	73.0	66.7	100	73.3
あり(常にコンドーム+)	0	0	2.7	0	0	2.2
あり(コンドーム-のこともあり)	100	0	21.6	33.3	0	22.2
不明	0	0	2.7	0	0	2.2
国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%)						
なし	100	100	73.0	66.7	100	75.6
あり(常にコンドーム+)	0	0	10.8	33.3	0	11.1
あり(コンドーム-のこともあり)	0	0	13.5	0	0	11.1
不明	0	0	2.7	0	0	2.2
性接触ありの場合の相手			9人中7人			
「風俗」で			28.6	100		
「風俗」以外で			28.6	0		
両方で			14.3	0		
不明			28.6	0		
海外渡航歴のある者(最近1年間)(%)	0	0	8.1	0	33.3	8.9
上記のうち			n=3		n=1	
渡航先で薬物使用のあった者			0		0	
渡航先で性交渉のあった者					100	
上記のうち、コンドームを使わなかったことのある者					0	

表7【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

	これまでに 注射経験なし 13[28.9]	これまでに注射経験あり		入れ墨	
		1年間にはなし 15[33.3]	1年間にもあり 17[37.8]	なし 35[79.5]	あり 9[20.5]
性別					
男	12[33.3]	10[27.8]	14[38.9]	28[80.0]	7[20.0]
女	1[11.1]	5[55.6]	3[33.3]	7[77.8]	2[22.2]
不明				1 (以下、n=44)	
年齢					
20歳未満			1[100]	1[100]	0[0]
20歳代	5[38.5]	2[15.4]	6[46.2]	9[69.2]	4[30.8]
30歳代	7[30.4]	9[39.1]	7[30.4]	19[86.4]	3[13.6]
40歳代	1[20.0]	3[60.0]	1[20.0]	4[80.0]	1[20.0]
50歳代		1[50.0]	1[50.0]	2[100]	0[0]
不明		1			
平均年齢±SD	31.6±5.2	36.2±7.9	31.1±8.1	33.2±7.9	32.9±6.2
現在の配偶歴					
未婚	61.5	53.3	76.5	62.9	66.7
既婚	15.4	20.0	5.9	14.3	11.1
離婚	23.1	26.7	17.6	22.9	22.2
死別	0	0	0	0	0
離婚歴あり	25.0	33.3	17.6	23.5	33.3
	3/12	5/15	3/17		
血清検査(%)					
HIV抗体陽性率	0	0	0	0	0
HCV抗体陽性率	7.7	46.7	47.1	37.1	22.2
HBs抗原陽性率	0	0	0	0	0
HBs抗陽性率	0	22.2	9.1	5.7	0
		2/9	1/11	2/25	0/5
HBc抗体陽性率	0	22.2	9.1	8.0	0
	0/11	2/9	1/11	2/25	0/5
TPHA陽性率	0	0	0	0	0
性病既往(自己申告)(%)					
モジラミ	0	13.3	12.5	8.8	12.5
	0/12	2/15	2/16	3/34	1/8
淋病	25.0	33.3	6.3	20.6	25.0
	3/12	5/15	1/16	7/34	2/8
クラミジア	0	6.7	6.3	2.9	12.5
	0/12	1/15	1/16	1/34	1/8
梅毒	0	0	0	0	0
	0/12	0/15	0/16	0/34	0/8
身体所見(%)					
輸血の既往あり	15.4	36.4	18.8	25.0	14.3
	2/13	4/11	3/16	8/32	1/7
歯の著明不良あり	23.1	7.1	47.1	25.7	33.3
	3/13	1/14	8/17	9/35	3/9
注射痕あり	0	7.1	41.2	17.1	22.2
	0/13	1/14	7/17	6/35	2/9
入れ墨あり	15.4	21.4	23.5		
	2/13	3/14	4/17		
指つめあり	0	7.1	17.6	5.7	2/9
	0/13	1/14	3/17	2/35	2/9
根性焼きあり	15.4	0	52.9	22.9	33.3
	2/13	0/14	9/17	8/35	3/9
自傷痕あり	15.4	42.9	47.1	34.3	44.4
	2/13	6/14	8/17	12/35	4/9

表8【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

	これまでに		これまでに注射経験あり		入れ墨	
	注射経験なし	1年間にはなし	1年間にもあり	なし	あり	
	13[28.9]	15[33.3]	17[37.8]	35[79.5]	9[20.5]	
これまでに (%)						
注射経験あり		100	100	68.6	77.8	
シリンジ共有経験あり		80.0	100	65.7	55.6	
針の共有経験あり		80.0	94.1	62.9	55.6	
注射経験の注射回数						
なし		20.0	5.9	31.4	22.2	
1~49回		13.3	0	8.6	11.1	
50~99回		60.0	82.4	5.7	0	
100回以上		6.7	11.8	45.7	66.7	
不明				8.6	0	
最近1年間で (%) n=15						
注射経験あり			100	37.1	44.4	
シリンジ共有経験あり			70.6	25.7	33.3	
針の共有経験あり			70.6	28.6	22.2	
注射経験の注射回数						
なし			0	62.9	55.6	
1~49回			29.4	11.4	11.1	
99回			5.9	0	11.1	
100回以上			52.9	20.0	22.2	
不明			0	5.7	0	
これまでに「あぶり」の経験あり (%)						
	46.2	33.3	70.6	51.4	55.6	
この1年間で「あぶり」の経験あり (%)						
	30.8	0	52.9	25.7	44.4	
この1年間でどちらが多いか? (%)						
注射	0	0	94.1	37.1	44.4	
「あぶり」	38.5	0	5.9	14.3	0	
どちらもなし	61.5	100	0	48.6	55.6	
「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%) n=34						
なし	53.8	57.1	47.1	55.9	33.3	
あり (常にコンドーム+)	46.2	21.4	23.5	29.4	33.3	
あり (コンドーム-のこともあり)	0	21.4	29.4	14.7	33.3	
不明		1人				
「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%)						
なし	76.9	80.0	64.7	71.4	77.8	
あり (常にコンドーム+)	0	0	5.9	2.9	0	
あり (コンドーム-のこともあり)	23.1	20.0	23.5	22.9	22.2	
不明	0	0	5.9	2.9	0	
国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%)						
なし	92.3	86.7	52.9	77.1	66.7	
あり (常にコンドーム+)	7.7	0	23.5	8.6	22.2	
あり (コンドーム-のこともあり)	0	13.3	17.6	11.4	11.1	
不明	0	0	5.9	2.9	0	
性接触ありの場合			7人中4人で	7人中5人で		
「風俗」で	100	0	50.0	60.0	0	
「風俗」以外で	0	100	0	20.0	50.0	
両方で	0	0	50.0	20.0	50.0	
外渡航歴のある者 (最近1年間) (%)						
	15.4	13.3	0	5.7	11.1	
上記のうち、渡航先で薬物使用のあった者	0/2	0/2				
渡航先で性交渉のあった者	0	50.0	0	50.0	0	
上記のうち、コンドームを使わなかったことのある者	0	0	0	0	0	